

令和 7 年(2025 年)7月 18 日

宝塚市長 森 臨太郎 様

宝塚市廃棄物減量等推進審議会

会 長 池 田 直 樹



宝塚市一般廃棄物処理基本計画(案)の策定について(答申)

令和6年(2024 年)7月8日付け宝塚市諮問第8号で諮問のあった宝塚市一般廃棄物処理基本計画(案)の策定について、慎重に審議を重ねた結果、別添のとおり改定案を取りまとめましたので、ここに答申いたします。

なお、当計画の目標達成のためには、市民・事業者の理解や協力のもと、具体的なごみの減量方法や分別排出方法について、わかりやすい情報発信に努めるとともに、下記の点について配慮されることを求めます。

記

1 一般廃棄物処理基本計画におけるごみの削減目標について

基本計画の数値目標の設定については、本市がめざす「環境への負荷が少ない循環型社会の構築」のため、市民一人ひとりが積極に取り組んでいくために重要なものと考えます。特に、家庭系ごみの削減目標は、明確なメッセージとして伝えることができるものです。

ただし、事業系ごみの目標設定に関しては、家庭系ごみと同様に、1日1人当たりで排出量を設定するというのは、検討の余地があり、今後、景気に左右されず、指標としてわかりやすいものを基準とし、事業系ごみの削減が図れるよう努めてください。

2 家庭系ごみ袋の有料化

他市町村において、家庭系ごみ袋の有料化が進められており、一定の効果がみられます。宝塚市では、基本計画における目標どおり家庭系ごみの削減が図られているため、現時点では、有料化は考えていないとのことですが、さらなる削減が必要となった場合を想定して、有料化のメリット・デメリットについて情報収集をお願いします。

3 ごみのリサイクル活動や市民と連携した活動

3R(リデュース・リユース・リサイクル)のうち、リサイクルについては、一定程度進展していますが、リデュース・リユースは、より一層の促進が必要です。計画中の取組内容のひとつとして、廃食油の回収があげられており、ごみに占める割合は少ないものの、資源化に対する

啓発的な要素が強いとのことですので、このような取組を今後も進めてください。

また、市民運動による環境整備や市民を巻き込んだごみの啓発活動も、重要な取組と考えます。従来と同じような取組の方法だけでなく、ごみゼロ推進員の成り手不足など、反省点を踏まえて工夫を凝らし、より効果のある方法を模索してください。

ごみの減量の目標については、量やパーセンテージの提示だけでなく、実施計画などで、それらを行動目標としてわかりやすいものに落とし込み、具体的に実現可能な取組として実施を検討してください。

4 事業系の燃やすごみ量の削減

事業系の燃やすごみ量の削減については、ごみ袋の有料化を計画中に記載するなど、インセンティブ(動機)を強めるという意味で、前回の計画に比べて踏み込んだものになっています。事業者への周知や啓発など、これらを含めてどう展開していくのか、より一層の工夫を図ってください。

そのためには、事業者の実態を、排出事業者だけでなく、収集事業者からも情報の聞き取りをしたり、統計上の数値を読み取り、活用するなど創意工夫を凝らし、ごみの減量と分別徹底に努めてください。